

# 三笠市立博物館 見学ワークシート 解答・解説編

## 問題1：②頭足類

アンモナイトはよくカタツムリの仲間間違えられますが、実はイカやタコ、オウムガイに近い仲間です。「展示コーナー2：アンモナイトの進化の歴史」には、アンモナイトとオウムガイの殻内部のつくりが比較されており、たくさんの壁で仕切られ、管が通っている点が共通しています。一方で、カタツムリなどの殻の中はこのようにつくりになっていません。この他、顎の化石はイカやタコの顎の形ととてもよく似ています。これらのことから、アンモナイトはカタツムリなどの仲間ではなく、イカやタコ、オウムガイと同じ頭足類の仲間であることがわかります。

## 問題2：「ニッポニテス・ミラビリス」または「ニッポニテス」

ここでは、正確な名前を書くことが重要なのではなく、一般的にイメージされる規則正しく巻いたアンモナイトの形とはかなり異なる種類の存在を認識することが大切です。なお、化石は「展示コーナー3：蝦夷層群のアンモナイト」のアロサウルス付近に展示されています。

**問題3：自分の体が常に水平になるように、殻の作り方を調整した結果であるという説や、流れが早くない安定した海では、この形の方が、むしろ泳ぎやすかったのではないかという説などがあります。**

しかし、実は誰もが納得する「定説」がなく、結論が出ていません。自然にはまだ解明されていないことも多くあり、正解のないことについて考え、想像するという科学研究の要素を体験してもらう目的として、この問題を用意しました。自分なりに考察をして解答していれば○にしたいと思います。(例えば、敵に襲われにくい(美味しくなさそう)、この形の方が異性からモテる、等。色々な可能性があると思います)

## 問題4：①肉食

アロサウルスの口には、ナイフのように鋭く尖った歯がたくさん並んでいます。現在生きている動物の中で、肉食のものは、肉を切り裂くための「犬歯」がこのように鋭く尖っています。このことから、同じように鋭い歯を持っていたアロサウルスは肉食だったことが推測されます。

**問題5：手足がヒレのようにになっている、尻尾が長く体全体が細い など。**

これ以外にも正解があると思います。古生物の生き様を探るために体つきの細部を観察してもらうことを目的として問題を用意しました。

**問題6：一部屋しかない、窓にガラスがない、水道がない、トイレがない など。**

明治時代の炭鉱住宅は、簡素な作りで、複数の家が繋がった長屋でした。一部屋しかないこと、隣同士が近いことは、強い連帯感を生んだようです。また、窓にはガラスがなく、冬には家の中もかなり冷えたのではないかと思います。また、トイレや水道は屋外に共用のものがありませんでした。現代の生活とかなり違ったことがわかるのではないかと思います。